



2021年10月29日

各位

会社名 三菱倉庫株式会社
 代表者名 取締役社長 藤倉 正夫
 (コード：9301、東証第1部)
 問合せ先 執行役員経理部長 稲毛 尚之
 (TEL 03-3278-6611)

2022年3月期第2四半期(累計)の連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2021年4月30日に公表しました2022年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と、本日公表の実績値との差異についてお知らせいたします。

また通期連結業績予想について、下記のとおり修正することとしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値との差異(2021年4月1日～2021年9月30日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期 純利益
前回発表予想(A)	百万円 110,000	百万円 5,700	百万円 7,700	百万円 4,900	円 銭 58.25
実績値(B)	117,632	7,778	10,167	6,817	83.27
増減額(B-A)	7,632	2,078	2,467	1,917	—
増減率(%)	6.9	36.5	32.0	39.1	—
(ご参考)前期第2四半期実績(2021年3月期第2四半期)	101,388	4,495	6,888	30,416	354.67

2. 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 227,000	百万円 12,600	百万円 16,200	百万円 13,300	円 銭 159.20
今回修正予想(B)	240,000	14,800	19,000	14,900	182.82
増減額(B-A)	13,000	2,200	2,800	1,600	—
増減率(%)	5.7	17.5	17.3	12.0	—
(ご参考)前期実績(2021年3月期)	213,729	11,735	16,013	39,160	462.28

3. 差異及び修正の理由

(1) 当第2四半期（上半期）の連結業績は、物流事業で倉庫、陸上運送、港湾運送及び国際運送取扱の各事業において貨物取扱量の回復が当初予想を上回ったほか、国際運送取扱事業において海上・航空運賃単価上昇の寄与もあり、営業収益は期首予想（2021年4月30日公表の予想数値）を約7%上回り、この増収効果により、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、いずれも期首予想を30%強上回りました。

(2) また、当連結会計年度は、下半期においても、物流事業の貨物取扱量は全体として引き続き堅調に推移すると予想されることから、通期連結業績予想について、営業収益、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益をそれぞれ増額修正することといたします。

(3) この結果、修正後の通期連結業績予想を前期との比較で見ますと、①営業収益は、物流事業で、倉庫、陸上運送、港湾運送及び国際運送取扱の各事業における貨物取扱量の回復のほか、国際運送取扱事業における海上・航空運賃単価上昇の寄与等により増収が予想され、不動産事業で、不動産賃貸事業における大阪の新規取得施設の寄与やマンション販売事業における販売物件の増加等に伴い増収が予想されるため、全体で約12%（約262億円）の増収が予想されます。②他方営業費用は、物流事業で、貨物取扱量の回復等に伴う作業運送委託費等の増加が見込まれるほか、不動産事業で、大阪の新規取得施設に係る不動産取得税やマンション販売物件の増加に伴う不動産販売原価等の増加が見込まれるため、全体で約11%（約232億円）の増加が予想されます。③この結果、営業利益は、物流事業で増益、不動産事業で減益となり、全体で約26%（約30億円）の増益が予想されます。④これにより、経常利益は、約19%（約29億円）の増益が予想されるものの、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に名古屋駅周辺の当社不動産事業用地の一部譲渡等による固定資産処分益及び受取補償金等を計上したことに伴う特別損益の悪化により、62%（約242億円）の減益が予想されます。

（注）上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上